



学習指導要領の改訂に伴う初等部の取組

部長 松本 安博

まとめの3学期が始まったと思っていましたら、早2月、まもなく節分を迎えます。

初等部では、清掃時間や放課後に教室の机の上やドアのノブをアルコールで消毒をし、インフルエンザの予防に努めています。ご家庭におかれましても、手洗いとうがいの励行とともに、栄養バランスや睡眠時間の確保に十分ご留意くださいますよう、お願いいたします。

さて、新しい学習指導要領の全面実施（小学校）まであと3年となり、その理念や具体的な改訂内容が少しずつ明らかになってきました。そして、その改訂の基本方針として、次のようなことが示されました。

まず、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的な進化など、加速的に変化する社会において、伝統や文化に立脚した広い視野をもち、志高く未来を創り出していくために必要な資質・能力を有した子どもたちを育成する学校教育の実現です。続いて「よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創る」という目標を、学校と社会が共有し、連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を育成する「社会に開かれた教育課程」の創造です。

また、今回の改訂では、そうした未来社会において、自立的に生きるために必要な「生きる力」を育成するという教育理念のさらなる具体化のために、次の3つの柱に沿って学力観や育成すべき資質・能力を明確にしておくことが求められています。

- 生きて働く「知識・技能」を習得させること
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成すること
- 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を涵養すること

そして、「どのように学ぶか」に関して、子どもたちが学習内容を深く理解し、生涯に

わたってアクティブに学び続けるようにするために、次の3つの視点から、「学習者の主体的・対話的学び」が重要であることが指摘されています。

- 学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結び付けていく「主体的な学び」
- 多様な人との対話や先人の考え方（書物等）で考えを広げる「対話的な学び」
- 各教科等で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表わしたり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」

これらのことは、建学の精神のもと、「知識基盤社会とグローバル化が進む自立と共生の未来社会を、志高く夢と希望をもって『感謝』と『奉仕』に生きる人づくり」、「時には人の手を借り、時には人に手を貸し、生涯にわたる自らによるよりよい自分づくり」をめざす初等部の教育理念や教育目標とも大いに合致するものです。

初等部では、今年度も本学の大学の先生方を講師に迎え、年間6回の全体授業研究会を実施し、不断の授業改善に取り組んできています。これからも未来社会を見据えた新しい特色ある教育課程の編成に、教職員一同、意を注いでまいりたいと考えています。



【1月26日（木）第6回全体授業研究会】